

日本ソーシャルワーク学会 2017年度 第34回大会 開催要項第2報

1. 大会テーマ：「専門性／専門職性の越境」
2. 開催日時：2017年7月22日（土）～23日（日）
3. 会場：北星学園大学C館（ホール、5階・6階教室）、学生会館
（札幌市厚別区大谷地西2丁目3-1）

4. 大会プログラム（予定）

2日目にワークショップが追加されました。是非ご参加ください。

【1日目】 7月22日（土）

- 9：30～ 受付開始
- 10：30～10：45 開会 学会会長挨拶 オリエンテーション
- 10：45～12：00 基調講演 James M. Mandiberg (Hunter College)
Dealing with “Wicked Problems” by Crossing Professional and Disciplinary Boundaries
—専門性、学問（訓練）領域の境界を越えて「難問」に向き合う
座長 志水 幸（実行委員長・北海道医療大学）
- 12：00～13：00 昼食休憩
- 13：00～16：00 実行委員会企画シンポジウム
- 16：00～16：15 日本ソーシャルワーク学会2016年度学術奨励賞 授与式
- 16：30～17：45 学会年次総会・名誉会員称号推挙式
- 18：00～20：00 情報交換会（北星学園大学学生会館）

【2日目】 7月23日（日）

- 9：00～ 受付開始
- 9：30～12：30 学会企画シンポジウム
- 12：30～13：30 昼食休憩
- 13：30～16：30 自由研究発表（一報告につき、報告20分・質疑応答10分）
「研究のできるソーシャルワーカー」を目指して（ワークショップ）

5. 参加費用

【大会参加費】

	会員 (共催団体の会員含む)	非会員	学生・大学院生
事前申込	7,000	8,000	3,000
当日申込	9,000	9,000	3,000

【情報交換会費】 5,000円

【昼食代】 1食1,000円（お茶付き）※事前申し込みのみ

6. 大会参加申し込み方法

事前参加申し込み：6月23日（金）締め切り

日本ソーシャルワーク学会ホームページ（<http://www.jsssw.org>）の学会大会案内ページから、参加申し込みフォームにアクセスしてお申し込みください。

7. 実行委員会企画シンポジウム

【テーマ・趣旨】

専門性／専門職性の越境―“社会的なるもの”の復権―

大会趣旨にもあったように近年は他職種や当事者・地域住民によるソーシャルワーク機能を有する福祉実践が広がりを見せている。地域共生社会における「越境」時代のなかで「ソーシャルワーク機能」と「ソーシャルワーク／ソーシャルワーカー」の両者をどう考えればいいのか。さらに、ソーシャルワーク／ソーシャルワーカーの本来機能（強み）は何なのだろうか。

本シンポジウムではこのような問いを出発点に、以下のような問題意識から議論する。①社会福祉問題の拡大や複雑化という現代的な社会状況のなかで、専門性／専門職性の「越境」という外在的問題と、ソーシャルワークの「本来機能（強み）」が発揮できていないもどかしさという内在的問題が相互に関連し、ソーシャルワーク／ソーシャルワーカーの「不安定さ（溶解）」（あるいは見えにくさ）が生じているのではないか。②「越境」に関しては、「専門性の越境」（専門職間）と、「専門職性の越境」（対当事者や地域住民）という2つの越境が想定できるが、この状況は「ソーシャルワーク機能」と「ソーシャルワーク／ソーシャルワーカー」をどう位置付けるかという問題でもあり無視できない論点のひとつである。③ソーシャルワークの「本来機能」は、ソーシャルワークの social に込められている“社会的なるもの”の意味を現代的状況のなかで再認識することによって明確になるのではないか。そして、それはおそらく専門性／専門職性の「越境」時代におけるソーシャルワークの開発的実践（社会変革機能）を意味するだろう。④しかし、開発的実践（社会変革機能）に関する方法論的な理論基盤は発展途上であり、かならずしもソーシャルワーク／ソーシャルワーカー間で明確に共有され、精緻化されているとはいえない。

上記の問題認識は、それぞれに論点が多様に存在し議論が拡散しがちであるため、シンポジウムでは若干の論点整理を行った上で、中心的な「問い」を以下のように設定する。

利用者（当事者）を主体にした時、はじめて「越境」時代の協働のあり方が見えてくるとすれば、そのときソーシャルワーク／ソーシャルワーカーの本来機能とは何か。それは社会変革機能だといえるのだろうか。もし、そうだとすれば何を明確にする必要があるのか。

シンポジストにはそれぞれ独自の立場から、地域実践の内容と他職種や当事者・地域住民との連携・協働について話題提供を受ける。コメンテーターには「地域を基盤としたソーシャルワーク」の観点から論点整理と意見提示を頂く予定である。最後に、フロアとの議論を行ったうえで、シンポジウムのまとめを行いたい。

【シンポジスト・スケジュール等】

企画趣旨説明等 コーディネーター 横山 登志子（副委員長・札幌学院大学）

シンポジスト

1. 保健師：小林 美子（えりも町役場/えりも町居宅介護支援事業所 居宅業務係長）
2. 社会起業：宮嶋 望（NPO 法人協働学舎副理事長/農業組合法人共働学舎新得農場 代表）
3. 社会福祉士：中村 哲也（日光市社会福祉協議会栗山支所 主査）

コメンテーター 川島 ゆり子（花園大学）

フロアとの議論

まとめ コーディネーター

8. 学会企画シンポジウム

【テーマ・趣旨】

現代日本のスペシフィックな社会福祉問題とソーシャルワークの専門性
～専門性の「越境」に対して、改めてジェネリックなアプローチを探る～

近年、日本の社会福祉をめぐるさまざまな領域において、地域共生社会のあり方が求められる一方で、既存の制度や社会サービスでは対応できない新しい社会問題・社会福祉問題が拡大し、解決の途が模索されている。これらは「制度の狭間」状態にある複雑・困難な問題でもあり、それぞれの領域、たとえば高齢者の地域包括ケア、児童虐待、生活困窮者支援等ではスペシフィックに問題解決の方策が検討され、施策化が進められている。しかしながらこれら各領域では、従来はソーシャルワーク(SW)が取り組んで来た福祉課題の解決を、SW 専門職以外の他専門職種(看護・リハビリ職等)、さらには一般住民などが担い、専門性の「越境」とも認識される事態が進行している。2015年に厚生労働省が発表した「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現」(新福祉ビジョン)では、新しい地域包括支援体制を担う人材としてコーディネート力のある人材の必要性が強調された。これらの人材は、地域社会に対する分析力やニーズに対して必要な社会資源を創造・開発したり、地域を変える等、本来であれば実践力、調整力、企画力、実践研究力のある SW 人材に求められる資質が問われている。しかしながら、新福祉ビジョンでは SW 人材に限定した記述はされていない。

このように、現代日本のさまざまな新しい社会福祉問題に対応して各領域でスペシフィックに取り組まれる各々の実践において、SW はどのような「独自性」「固有性」を提示できるだろうか。またその「専門性」を、どのように SW の有効な方法論として定式化し、確立できるだろうか。それは、現代日本のスペシフィックな社会福祉諸問題への解決方策をたて軸に見立て、それぞれの問題解決方法を通底するよこ軸としての、切れ味の良い「横ぐし」を通すジェネリックなアプローチの探索とすることができよう。

本シンポジウムでは、大会テーマ「専門性／専門職性の越境」の下、大会初日の実行委員会企画シンポジウム「専門性／専門職性の越境～社会的なるもの」の復権」で行われる議論を受けて、大会2日目に本学会理事が中軸となって、現代日本のスペシフィックな福祉問題の解決に有効な、SW 固有のジェネリックなアプローチを探索する。その際、現代日本のスペシフィックな社会福祉諸問題の解決には、ミクロレベル・個人レベルの実践を、メゾ・マクロ領域の SW 実践に反映させ、それを福祉制度・施策、政策へと架橋する視点とアプローチが、まずは重要と考える。各シンポジストには、この観点から注目される4つのアプローチ(SW アドボカシー、実践家・当事者参画型「プログラム開発と評価」、狭間問題に対するコミュニティ SW 開発アプローチ、クライアント中心アプローチ等 SW における「固有」の価値・思想を反映したアプローチ)を取り上げて頂き、SW の独自性・固有性の観点から報告して頂く。その上で4演題に共通する視点・アプローチを討議する中から、こんにち日本社会に求められる SW 固有の有効な視点・アプローチ、実践的理論を構築できればと願っている。

【シンポジスト・テーマ等】

1. 小西 加保留 (関西学院大学)：ソーシャルワークアドボカシーの可能性～環境アセスメントによるミクロ・メゾ・マクロ SW 実践への展開
2. 大島 巖 (日本社会事業大学)：実践家・当事者参画型の「プログラム開発と評価」アプローチ
3. 川島 ゆり子 (花園大学)：制度の狭間問題に対するコミュニティソーシャルワークの開発アプローチ (仮)
4. 木原 活信 (同志社大学)：クライアント(当事者)中心アプローチなど、ソーシャルワークにおける「固有」の価値・思想を反映したアプローチ (仮)

○指定発言 奥田 かおり (北海道医療大学)

○コーディネーター 大島 巖 (同上)、空閑浩人 (同志社大学)

9. 「研究のできるソーシャルワーカー」を目指して（ワークショップ）

【テーマ・趣旨】

日本ソーシャルワーク学会研究推進事業の一環として2019年度発行をめぐり、ソーシャルワーク実践者に向けた研究ガイドブック（『本当のことを知る方法～ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック～（仮題）』）出版を企画している。そこで関係者への周知や出版企画内容の試行等を目的とし、ワークショップを開催する。

【スケジュール等】

日 時：7月23日（日）13：30～16：30（大会2日目午後）

参加費：無料

申し込み：大会事務局(nakay@sgu.ac.jp)まで、メールにて事前申し込みとする

定 員：30名

プログラム：

13：30～13：40 趣旨説明、紹介

13：40～14：40 研究の進め方、研究方法と実際の解説

小山 隆（同志社大学）、志村 健一（東洋大学）

14：40～15：00 実践者からの報告

15：00～15：10 休憩

15：10～16：30 実践者に対するライブ・スーパービジョン、フロアも交えた討議

進行：保正 友子（立正大学）

報告内容：

- ・小山 隆：実践者が研究する意義、問題関心からリサーチクエスションの立て方、研究方法の選択、倫理的配慮等、研究の進め方について
- ・志村 健一：質的研究法として注目されているグラウンデッド・セオリーの紹介、実際の研究テーマと研究方法の関係、研究方法を用いた研究の進め方
- ・実践者：これから実践に基づく研究を試みようとする方から、実践内容の紹介、問題意識、研究を進める上で困っている点など

企画・準備：日本ソーシャルワーク学会研究推進第三委員会

詳しくは、日本ソーシャルワーク学会ホームページ（<http://www.jsssw.org>）内の学会大会案内ページでご案内しておりますのでご覧ください。

■主催 日本ソーシャルワーク学会

■共催 (NPO)日本ソーシャルワーカー協会、(公社)日本社会福祉士会、(公社)日本医療社会福祉協会、(公社)日本精神保健福祉士協会、(NPO)北海道ソーシャルワーカー協会、(公社)北海道社会福祉士会、(一社)北海道医療ソーシャルワーカー協会、(一社)北海道精神保健福祉士協会

【お問い合わせ先】

日本ソーシャルワーク学会第34回大会事務局

〒069-8555 北海道江別市文京台11番地

札幌学院大学人文学部臨床心理学科 中村裕子研究室

TEL：011-386-8111 FAX：011-386-8113

E-mail：nakay@sgu.ac.jp